

生命を守るために

洪水のリスクを知り、心構えを

昨年秋の「関東・東北豪雨」を覚えていますか？

「線状降水帯」に沿った強い雨によって、茨城県常総市では鬼怒川の堤防が決壊したほか、荒川流域でも都幾川がはん濫危険水位に達するなどしました。水害は決して他人事ではありません。堤防やダムなどの治水施設だけでは防ぎきれない「大洪水は必ず起こるもの」へと意識を改め、「もしもの事態」に備えましょう。

一人一人が水害を「我がこと」として考え、洪水ハザードマップなどで洪水のリスクを知り、洪水時の避難先や取るべき行動などを家庭や職場などで普段から話し合っておくこと。そして、洪水時には市町村が出す避難情報に注意しながら、パソコンや携帯電話を活用して川の水位の情報や洪水予報などの防災情報を確認するなど、洪水から生命を守るため、いざというときに適切な避難行動をとれるようにしましょう。

水防災意識社会って何だろう



治水施設の能力には限界があります
(昨年秋の関東・東北豪雨。県内のような)

治水施設による「防災」だけでなく 一人一人の行動による「減災」を

荒川で近代的改修が始まって間もなく100年。治水施設などの整備が進んだことで水害は減少しています。それに伴って、社会の意識は「水害は堤防などによって防止するもの」へと変化してきました。しかし、治水施設の能力を上回る洪水は依然として発生する恐れがありますし、今後の気候変動によって発生頻度がさらに高まることも懸念されます。

今、治水施設だけでは防ぎきれない大洪水は必ず発生するものへと意識を変革し、社会全体で洪水に備える「水防災意識社会」の再構築が求められています。例えば、今回紹介する災害リスク情報や防災情報を避難行動に役立てることが大事です。そのほかに、私たちに何が必要で、何ができるのでしょうか。4回にわたって考えます。

荒川上流河川事務所

心が叫びたがってるんだ。

荒川の上流、秩父を舞台にした
劇場アニメ「心が叫びたがってるんだ。(ここきけ)」との
コラボが実現しました。主人公たちが
4回にわたって荒川の今を紹介します。

【次回掲載は9月予定】

非常持ち出し袋の中を
見てみませんか？

非常持出袋

防災情報がスマホで
入手できるようになったって
知ってる？

日頃から「洪水ハザードマップ」で 水害リスクを確認しましょう

荒川などが大雨や台風で氾濫したらどうなるのでしょうか。みなさんの家は安全ですか？市町村が作成している「洪水ハザードマップ」は、河川のはん濫によって想定される浸水の範囲と深さ、避難場所などの情報を分かりやすく伝えるための地図です。日頃から、ハザードマップで洪水のリスクやいざというときに取るべき行動を確認しておいてください。ハザードマップはウェブでもご覧になれます。

また、ハザードマップ作成の基本になる荒川の「洪水浸水想定区域」を、想定し得る最大規模の降雨に基づくものと見直し、5月末に公表しました。こちらもインターネットで閲覧いただけます。



市町村が作成している洪水ハザードマップ。国交省の「ハザードマップポータルサイト」から閲覧できます

ハザードマップで 検索

「川の防災情報」サイトでリアル タイムの情報を。スマホでも

国土交通省の「川の防災情報」サイトは、雨や川の水位の状況など避難に必要な情報をインターネットを通じて配信しています。このサイトにスマホ版が登場しました。GPS機能を活用して、現在位置周辺のレーダ雨量や、河川の水位などの情報を迅速に入手できます。洪水時、リアルタイムに情報を把握し、的確な行動がとれるように役立ててください。



スマホ版「川の防災情報」。雨量や川の水位、洪水予報などのほか「洪水浸水想定区域図」も閲覧できます

川の防災情報で 検索

水がピンチ! 節水にご協力をお願いします

水道用水として荒川・利根川から取水されている水の約90%はダムに貯められた水です。首都圏の水がめといわれる利根川上流8ダムの貯水量は、8ダム体制となった平成4年以降の同時期と比較して最低を記録しています(7月13日時点)。現在取水制限を実施中ですので、節水にご協力をお願いします。



荒川の支川では今年、川の流れが途切れる「瀬切れ」が発生しました

●原画:植田華菜子
●監修:田中将賀
●仕上げ:中島和子
●特効:森山博幸

© KOKOSAKE PROJECT

荒川図画コンクール募集中! 荒川図画コンで 検索